

発行 車体発 18 第 202 号

2019年3月15日

2019年度 トレーラ国内需要見通し

日本自動車車体工業会トレーラ部会では、2019年度のトレーラ国内需要見通しをまとめたので発表します。

1. 2018年度のトレーラ需要見込み

日本経済は順調な景気回復が続いたものの、夏場の各地での自然災害による工場停止や物流網の寸断が生じた結果、トレーラの生産台数が2017年度より押し下げられた。

そのためトレーラの生産は、バンが前年度比96%、コンテナ用は同94%、平床（あおり付きを含む）は同107%という結果になった。その他のトレーラは同104%であった。

2. 2019年度のトレーラ需要見通し

世界経済は米国、中国、欧州の減速が見込まれるが、原油価格が落ち着いていることやドライバー不足解消の対策としてトレーラ化が増えていることより、トレーラ総需要は2018年度並と予測される。

こうしたことから、トレーラ総需要は8,500台、2018年度比101%と見込まれる。

・2019年度トレーラ国内需要見通し

(単位:台)

年 度	2017年度	2018年度	2019年度	対前年度比	
	(A)実績	(B)見通し	(C)予測	2018年度 (B/A)	2019年度 (C/B)
合 計	8,487	8,400	8,500	99%	101%
形 状	コンテナ用	2,559	2,400	94%	100%
	バン	2,807	2,700	96%	107%
	平床・低床	2,061	2,200	107%	95%
	その他特装系	1,060	1,100	104%	100%

(注) 1. 日本自動車車体工業会でいうトレーラとは貨物輸送用をいい、キャンピングトレーラ、ポートトレーラなどは除く
2. 上記数字は当会会員の台数（並行輸入車等は含まず）

(本件の問合せ先) 日本自動車車体工業会事務局:土屋